

**RI 施設における放射線管理を目的とした測定の信頼性確保に関する
専門研究会（第1回会合）
議事録**

1. 日時：令和3年5月21日（金）9:30～11:30

2. 場所：Web開催（zoom方式）

3. 出席者（順不同、敬称略）

委員

黒澤忠弘（産総研、主査）、牧大介（京大、幹事）、加藤昌弘（産総研）、高橋知之（京大）
桧垣正吾（東大）、稲垣昌代（近大）、清宮貴之（千代田テクノル）、水野裕元（富士電機）、
片岡憲昭（都産技研）、内田芳昭（放計協）、秋吉優史（大阪府大）

オブザーバー

比嘉剛志（東北大）、和田雅志（JT）、石川良介（積水メディカル）、加藤小織（原子力機
構）、中畠純也（原子力機構）、大倉毅史（原子力機構）、吉富寛（原子力機構）、谷村嘉
彦（原子力機構）、山口一郎（保健医療科学院）、渡邊将人（中部電力）、堀口亜由美（千
代田テクノル）、米澤規央（千代田テクノル）、吉原章太（千代田テクノル）、東條智（千
代田テクノル）、中川博雄（千代田テクノル）、江崎巖（千代田テクノル）、脇谷雄一郎（RI
協会）三家本隆宏（RI協会）大森康孝（福島医大）

4. 議題

- ① 主査挨拶
- ② 出席者自己紹介
- ③ 本専門研究会について
- ④ 専門研究会の活動内容について
 - ・専門研究会における検討事項について
 - ・今年度の活動について
- ⑤ 学会シンポジウムについて
- ⑥ 今後のスケジュールについて
- ⑦ その他

5. 配布資料

資料1:RI施設における放射線管理を目的とした測定の信頼性確保に関する専門研究会の
概要（日本保健物理学会提出資料）

資料 2：検討事項（案）

資料 3：令和 3 年度の活動について（案）

資料 4：学会シンポジウムへの参加について（案）

資料 5：今後のスケジュール（案）

6. 議事内容（進行：牧幹事）

6.1 主査挨拶

黒澤主査より、本専門研究会の開催にあたり、挨拶があった。

6.2 出席者自己紹介

出席者が各自自己紹介を行った。

6.3 本専門研究会について

資料 1 に基づき、牧幹事より、本専門研究会の趣旨説明が合った。

6.4 専門研究会の活動内容について

牧幹事より、資料 2 に基づき、専門研究会における検討事項について説明があった。また、資料 3 に基づき、専門研究会の今年度の活動について説明があった。主な議論は以下の通りである。

<測定器に関する検討>

- ・検討対象の機器として WBC も追加する必要があるのではないか。
- ・WBC の測定器の校正は、Ge か NaI の校正とみなすことができるのではないか。
- ・低 BG アルファ・ベータ汚染測定用機器として、ガスフローカウンタ（比例計数管）、プラスチックシンチレータも挙げられる。
- ・環境中 α 核種の測定ではシリコン半導体検出器や ICP-MS も使っている場合がある。
- ・ヨウ素用サーベイメータは、実験用で使っている場合がある。また、汚染検査用としても使用されている事例があるようである。校正機関による校正実績もある。
- ・環境モニタリングを補完するための電子線量計も挙げられる。
- ・電子式個人線量計は、一時立入者用、補助的な使用など、法改正の趣旨に沿って使用目的を区別して確認する必要がある。
- ・エリアモニタの校正方法として、プローブを外して校正する方法が挙げられる。
- ・ガスモニタの点検校正方法は様々であり、アンケートの際に留意する必要がある。
- ・校正そのものと、校正が維持されていることの点検を区別する必要がある。
- ・まずは水色で色づけした測定器を事例として検討を進めるが、アンケートの回答次第では更に追加することも考えられる。ガスモニタは追加する。
- ・HFC モニタは表面汚染用サーベイメータと同様に考えられるのではないか。

<専門研究会のアウトプットに関する検討>

- ・専門研究会のアウトプットは、個々の事例に対してどのような点検や校正方法があるかを見えるようにする必要がある。
- ・実測（実験）ができれば猶更よい。
- ・測定器のケーススタディについて、早めに検討を進める必要がある。
- ・専門研究会について細則が変更され、報告書の作成は必須となっている。
- ・報告書を有効なものとするためには、独りよがりにならないことが重要であり、他団体との連携を進める必要がある。

<その他>

- ・アンケートの方針、規格の調査方針は、まず各班で議論を行うこととする。
- ・今回オブザーバで参加された方も、業務の都合上可能であれば委員として加わっていたきたい。

6.5 学会シンポジウムについて（資料4）

秋吉委員より、6月21日開催の日本保健物理学会シンポジウムについて説明があった。また、桧垣委員より、6月25日開催の日本放射線安全管理学会シンポジウムについて説明があった。牧委員より、これらのシンポジウムへの参加について説明があった。主な議論は以下の通りである。

- ・アンケートの方針をこれらのシンポジウムの前までに議論し、その結果をシンポジウムでの報告に含め、回答を促すための宣伝を行う。
- ・安全管理学会シンポジウムでは、測定の信頼性確保のための、現実的な落としどころを議論していきたいと考えている。そのためには現状を把握しておくことが必要である。
- ・保健物理学会は、例年1～2月にもシンポジウムを開催している。

6.6 今後のスケジュールについて（資料5）

牧委員より、今後のスケジュールについて説明があった。

6.7 その他

常時参加されるオブザーバの方も含め、以下のように班分けした。

なお、以後のメンバーの追加変更はありうる。

<規格班>

黒澤忠弘、牧大介、水野裕元、片岡憲昭、内田芳昭、秋吉優史

<アンケート班>

加藤昌弘、高橋知之、桧垣正吾、稲垣昌代、清宮貴之、比嘉剛志、和田雅志

以上